

去る9月11日（月）～14日（木）に、早稲田大学で開催された第69回日本生物工学会大会における国際交流関連行事を中心に今年度の国際交流活動について報告する。

■**生物工学アジア若手賞** 本年度は第14回目となり、台湾のJohn Chi-Wei Lan (Department of Chemical Engineering and Materials Science, Yuan Ze University) 博士とマレーシアのTau Chuan Ling (Institute of Biological Sciences, Faculty of Science, University of Malaya) 博士に授与された。受賞対象となった研究題目は、「Aerobic utilization of crude glycerol by recombinant *Escherichia coli* for simultaneous production of poly 3-hydroxybutyrate and bioethanol (組換え型大腸菌を用いた粗グリセロールの好氣的利用：ポリ3-ヒドロキシ酪酸とバイオエタノールの同時生産)」と「Recovery of biotechnological products using aqueous two phase systems (水性二相系を利用したバイオテクノロジー生産物の回収)」で、受賞講演は大会2日目の午後に行われた。

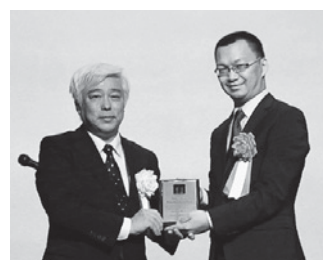
Lan博士は学部・修士課程は台湾のNational Taipei Institute of Technologyで学び、1996年から英国のBirmingham大学にて博士課程に進学、2000年に博士の学位を授与された。その後、2000–2004年の間は台湾のAcademia Sinicaで博士研究員として、2004年には山口大学工学部応用化学科、その後、2007年まではIndustrial Technology Research Institute of Taiwanで研究フェローとして研究に従事した。2007年には台湾のYuan Ze大学のAssistant Professor、2013年からは同大学のAssociate Professor (現職)となった。この間、バイオエネルギーや生物化学工学の分野を中心に幅広く研究を展開し、目覚ましい研究成果をあげている。

Ling博士は、1998年までマレーシアのPertanian大学 (学部)、Putra大学 (修士)で学び、その後、英国のBirmingham大学にて博士課程に進学し、2002年に博士の学位を授与された。その後、マレーシアのPutra大学で、Lecturer (–2006)、Senior Lecturer (–2008)、Associate Professor (–2011)として教育研究に従事した。2011年からMalaya大学の教授 (現職)となった。この間、Ling博士は活発な国際交流を進め、台湾のYuan Ze大学、中国の厦門大学、スウェーデンのLund大学、日本の神戸大学に滞在している。Ling博士はダウンストリームプロセスの開発、特に水性二相系を用いたタンパク質・ペプチドの分離・精製技術開発に関して優れた研究成果をあげている。

両氏の今後の研究における益々のご発展を期待したい。

■**生物工学アジア若手研究奨励賞(The DaSilva Award)** 第6回目の本年度はインドネシアのFithriyah Sjatha (Universitas Indonesia) 博士に授与された。受賞対象となった研究題目は、「Production of resuscitation-promoting factor B of *Mycobacterium tuberculosis* using various expression systems and their immunogenetical study for vaccine platform (多様な発現系を用いた*Mycobacterium tuberculosis*由来蘇生促進因子Bの生産と結核ワクチン開発を目指した免疫遺伝学的研究)」であった。Fithriyah Sjatha博士は2001–2005年の間、インドネシアのDiponegoro大学 (学部)、2006–2008年の間Universitas Indonesia (修士)で学び、2010年に神戸大学医学研究科において博士課程に進学し、2014年に博士の学位を授与された。その後、Universitas Indonesiaに戻り、研究拠点形成事業の中で我が国の研究者と活発に研究交流を継続しながら Deng ウイルスや結核菌に対するワクチン開発を目指した研究に従事している。同氏の今後の研究における益々のご発展を期待したい。

■**韓国生物工学会 (Korean Society for Biotechnology and Bioengineering, KSBB) との人物交流** 4月5日～7日にHICO (慶州)で開催されたKSBB春季大会に、昨年度の学会賞受賞者である本多裕之先生 (功績賞・名大)、松浦友亮先生 (斎藤賞・阪大)、河原正浩先生 (照井賞・東大)が参加し、講演を行った。第69回日本生物工学会大会では、KSBBからの4題の招待講演が、大会2日目の二つのシンポジウムの中で行われた。招待講演者は、Dong-Myung



Dr. John Chi-Wei Lan



Prof. Tau Chuan Ling

Kim教授 (Chungnam National University), Sung Ok Han教授 (Korea University), Jong Wook Hong教授 (Hanyang University), Donghyun Lee准教授 (Chung-Ang University)であった。また、本年のKSBB秋季大会は10月12日から13日までBEXCO (釜山) で開催され、高木昌宏副会長・中野秀雄理事が参加した。高木副会長はMembrane Biophysics & Nanobiotechnology, 中野理事はExploring Enzymes and Proteinsと題した国際セッションにおいてそれぞれ研究発表を行った。

■KSBB-SBJ 交流会議 第69回大会2日目の12日午後、上記4名のKSBB関係者にJeong Woo Choi教授 (KSBB会長, Sogang University) を加えた5名が出席し、交流会議が開かれた。交流会議では今後のKSBB-SBJ交流方針その他について意見交換が行われた。本会からは、木野会長、高木副会長、藤山・高木・中野・跡見 (国際展開)、石井 (第5回SBJシンポジウム担当)、貝沼 (庶務) の各業務担当理事が出席した。

2018年度のKSBB春季大会および同秋季大会への本会会員の派遣、2018年度のSBJシンポジウムおよび第70回日本生物工学会大会へのKSBB会員の招待人数などについて打合せが行われた。

■その他 今大会では初日の授賞式において木野会長の挨拶に続いて、KSBBを代表してJeong Woo Choi会長によるご挨拶があった。同日夕刻の懇親会ではChoi会長が鏡開きに参加された。大会2日目の夕刻には、会場近くの飲食店で歓迎会が開催され、両学会の親睦を深めることができた。



Jeong Woo Choi KSBB会長



前列向かって左から、Prof. Dong-Myung Kim, Prof. Jeong-Woo Choi, 木野会長、高木副会長
後列向かって左から、Prof. Jong Wook Hong, Prof. Donghyun Lee, Prof. Sung Ok Han, 中野、
貝沼、藤山、石井、跡見、高木